



流域治水プロジェクトの取組状況

令和7年2月12日

土岐川・庄内川流域治水協議会



みんなでももる土岐川・庄内川



土岐川・庄内川流域治水協議会は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

流域治水対策の代表事例 【多治見市】



○これまでの庄内川水系流域治水プロジェクトに基づく取組に加え、主に雨水出水浸水想定区域図の策定、グリーンインフラの取組として、多治見かわまちづくり計画(上流区間)を積極的に取り組んでいく予定です。

○水防協力団体に「土岐川・庄内川の研究・作品大募集！」にご協力いただきました。

○雨水出水浸水想定区域図の作成

令和7年度中に公開予定

○グリーンインフラの取組として、多治見かわまちづくり計画の推進

今後は散策路、多目的空間の整備を実施

○令和6年3月に水防協力団体に指定された「株式会社バローホールディングス」の活動

土岐川・庄内川流域治水自由研究「土岐川・庄内川の研究・作品大募集！」への協力

多治見市内3店舗において募集ポスターを掲示

バロー多治見南店



多治見市内2店舗において作品展を実施

バロー多治見南店



流域治水プロジェクトの取組状況【土岐市】

● ワンコイン浸水センサ実証実験を実施。

近年多発する豪雨に対し、これまで以上に迅速に水害対応を行うため、ワンコイン浸水センサを設置し、浸水状況を速やかに把握するとともに、市民への警戒情報の発信を強化する。

ワンコイン浸水センサ設置箇所

- ・大雨時に冠水が発生しやすい市道(アンダーパス)
- ・水路と高低差が小さい歩行者用通路(アンダーパス)
- ・河川の橋脚(陸開付近)

監視カメラの設置(令和5年度 本協議会報告)

・令和6年度に監視カメラの設置箇所を検討し、令和7年度に設置する。洪水危険箇所や脆弱な箇所をリアルタイムに監視することで、河川等の急激な水位の上昇をいち早く察知し、迅速な水害対応を行う。また、河川の映像配信を行うことで、ワンコイン浸水センサと併せて、市民が自主的に早期避難行動を起こすことにつなげる。

実証実験により期待される効果

- ・職員による現場確認や市民からの通報、アンダーパスに設置した冠水情報表示システムなどの既存の状況確認に加え、ワンコイン浸水センサを併用し、浸水状況を迅速に把握する。
- ・浸水被害のあった箇所にワンコイン浸水センサを設置し、重点的な警戒監視を行い、浸水時に早期に通行規制など水害対応を行うことができる。
- ・センサ本体の設置が容易であるため、他の水路などに設置し危険箇所の調査に活用できる。
- ・一般公開中の浸水センサ表示システムから、市民は自主的に浸水情報を取得することが可能。
- ・実証実験への参加自治体や企業が増えることで、全国的な情報共有の有効性や情報収集の仕組みの構築に向けて高い精度で検証を行うことができる。

実証実験中の浸水センサ表示システム



土岐川や他河川などへの監視カメラの設置箇所を検討中

ワンコイン浸水センサ設置箇所



陸開付近の橋脚



水路と高低差が小さい通路



冠水が発生しやすい市道

流域治水プロジェクトの取組状況【春日井市】

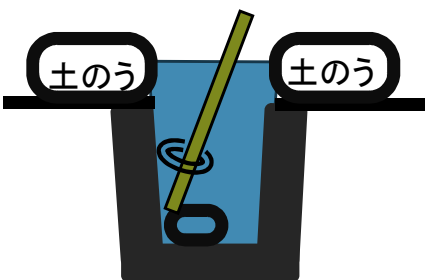


- 水防訓練を実施し、地域住民に流域治水を自分事として捉えていただけるような体験を提供しています。
- 大雨に備えた土のうの配付を事前に実施することで、大雨に対する事前の備えや意識の向上を図っています。
- 大雨・洪水・暴風警報の発表と同時に、指定一般避難所に職員が出向し、避難所の開設準備を行うことで、地域住民の安全確保に努めています。

【水防訓練の参加住民が冠水道路体験を行っている様子】



【土のう配付希望者の自宅等に事前配付する様子】



水を溜めた側溝を冠水道路に見立て、棒を使用することで道路上の障害物、深さ等を判断。

流域治水プロジェクトの取組状況【稲沢市】

- 気候変動に伴う水害リスクの増大に備え、流域治水プロジェクト2.0に基づいて「雨水貯留施設の整備」「雨水流出抑制施設設置補助の拡充」に取り組んでいます。

雨水貯留施設の整備



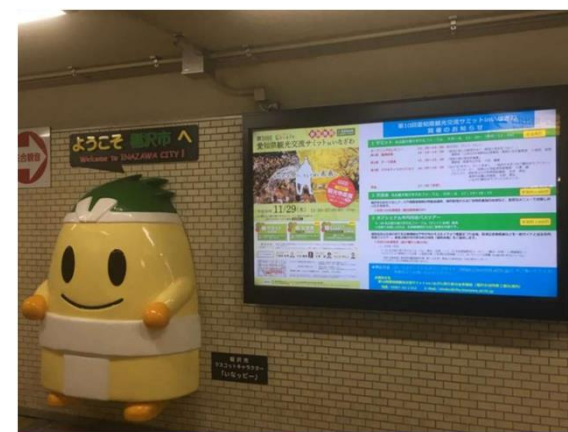
市民と力を合わせた流域治水



市民と力を合わせた「流域治水」の取り組みを進めるため、SNSや市イベントでの啓発活動に加え、主要駅のデジタル掲示板の活用を検討中。



稲沢まつりの様子



検討中のデジタル掲示板(国府宮駅)

内外水統合型の多段階の浸水想定図・水害リスクマップ



海浜で暮らす土崎川・住内川

○内外水統合型の多段階の浸水想定図や水害リスクマップは、浸水想定区域図(想定最大規模)と比べて、より発生頻度の高い外水・内水氾濫の浸水リスクを一体的に確認することが可能となっております。

○このため、立地規制等のまちづくりや企業・学校施設の水害対策(止水板、嵩上げ等)の他、居住地の検討において、対策の必要性判断や対策内容の選定・優先度の決定などに活用が可能です。

＜水害に関する主な情報＞

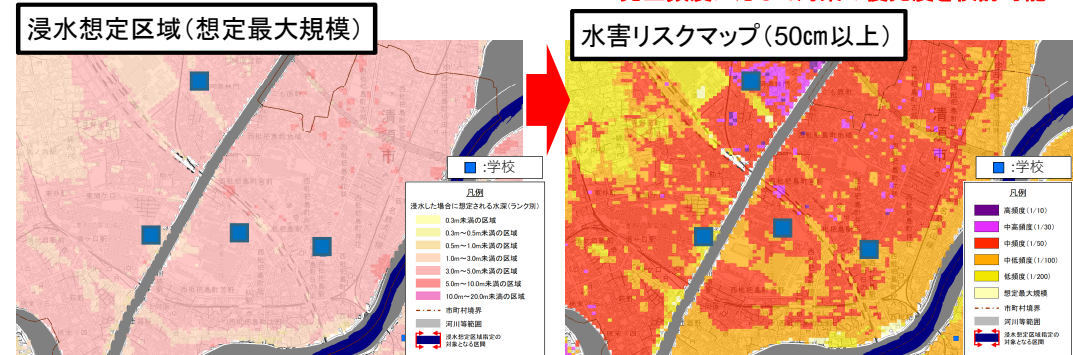
活用方策	具体的な内容
まちづくり	発生頻度の違いにより、立地規制や建築規制等を検討することが可能。
企業や学校施設における水害対策	- 浸水頻度と浸水深を把握することで、施設の重要度に応じて、きめ細やかに浸水防止板や嵩上げの高さを設定することが可能。 - 対策を行う学校施設について、発生頻度を踏まえて、対策の優先度等を具体的に設定することが可能。
居住地の検討	発生頻度・浸水深に応じて、事前に居住地として避けることや、浸水防止板設置等の対策の検討、居住スペースの高床化を検討することが可能。

例)：企業・学校施設の水害対策への活用

◆ 各学校は、1m～3mの浸水範囲に位置(浸水リスクは、どの学校も同程度)

◆ 50cm以上の浸水発生頻度が、学校ごとに異なることを確認可能

→発生頻度に応じて対策の優先度を検討可能

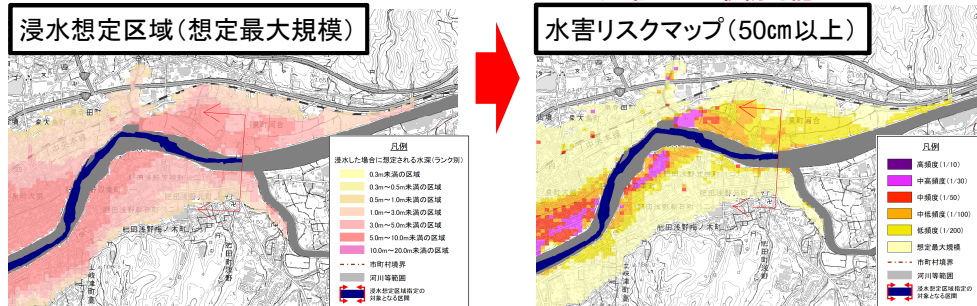


例)：まちづくりへの活用

◆ 広い範囲で50cm以上の浸水が発生

◆ 50cm以上の浸水が高頻度で発生する地域は限定的

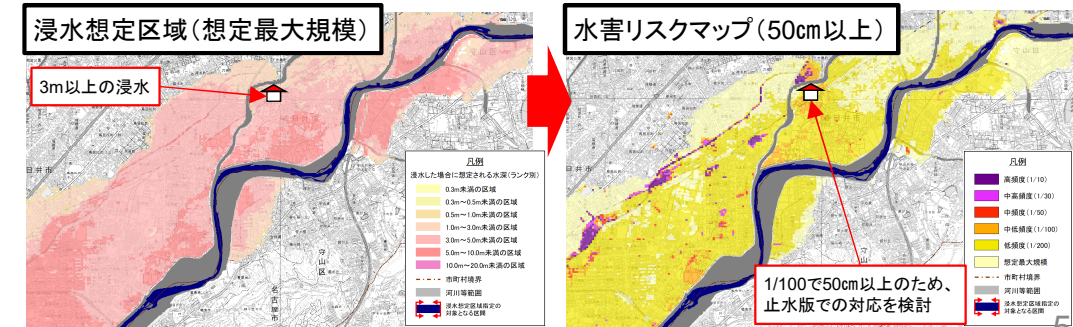
◆ この地域に、立地規制を適用
→発生頻度に応じて、土地利用規制を
キメ細やかに検討可能



例)：居住地の活用

◆ 広い範囲で50cm以上の床上浸水であり、最悪の事態における避難の必要性等は確認可能

◆ 1/100で50cm以上の床上浸水となるため、居住値の高床化まではせず、止水版で対応
→居住地対策をより具体的に検討可能



内外水統合型の多段階の浸水想定図・水害リスクマップ^①

○内外水統合型の水害リスクマップは、R4.9公表した国管理区間(庄内川(土岐川)・矢田川)からの外水氾濫のみを対象とした水害リスクに指定区間や下水道等からの氾濫による水害リスクを統合することにより、よりきめ細やかに水害リスクの把握が可能になります。

○水害リスクマップは、「浸水が想定される範囲」「浸水深50cm(床上浸水相当)以上」「浸水深3m(1階居室浸水相当)以上」の3つの浸水状況のパターンについて、リスクの把握が可能です。

＜水害リスクマップ（外水氾濫のみ）＞

R4.9公表濟

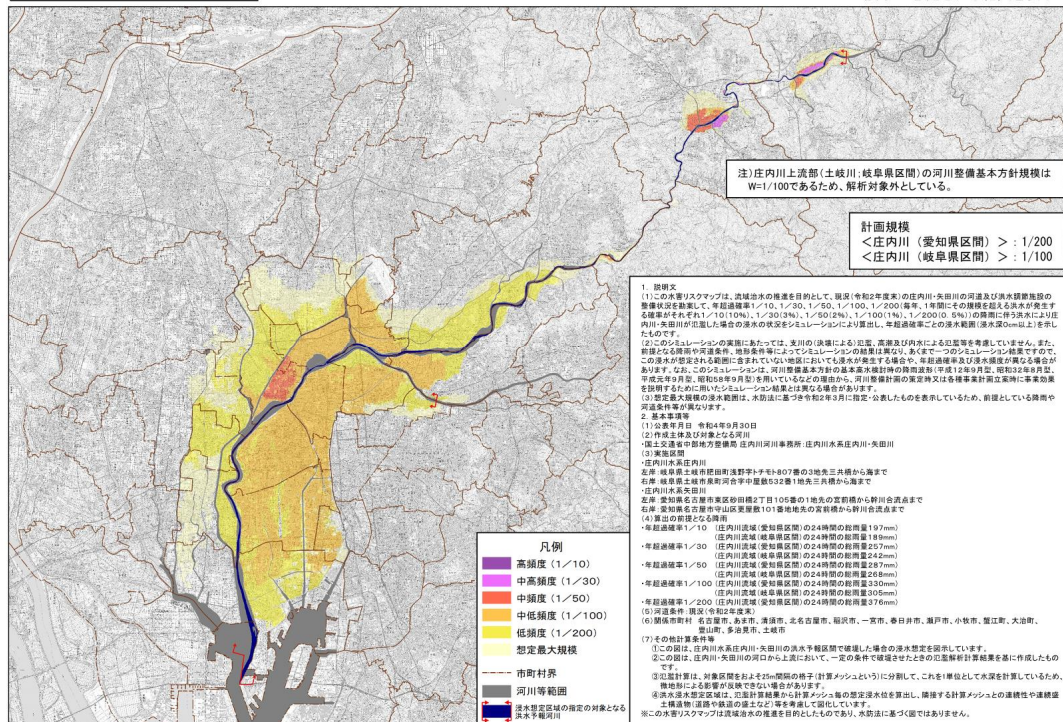
＜水害リスクマップ^o（内外水統合）＞

R7.3 公表予定

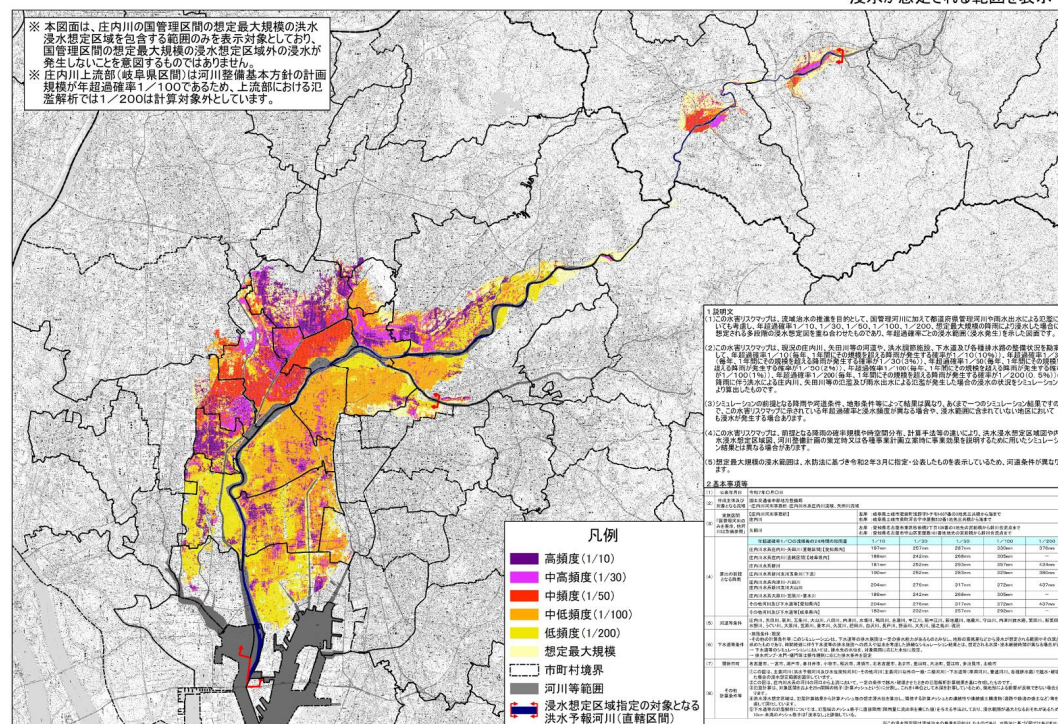
令和4年9月末時点版

【現況河道】

浸水が想定される範囲を表示



漫水が想定される範囲を表示



※現在精査中であるため図面や記載分は、今後修正の可能性があります。



内外水統合型の多段階の浸水想定図・水害リスクマップ

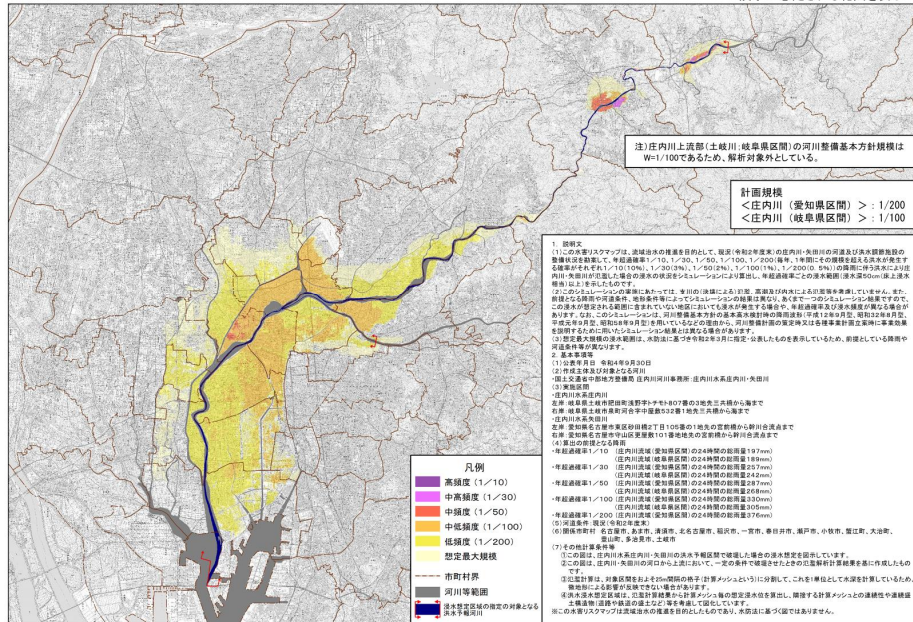
<水害リスクマップ（外水氾濫のみ）>

R4.9公表済

令和4年9月末時点版

【現況河道】

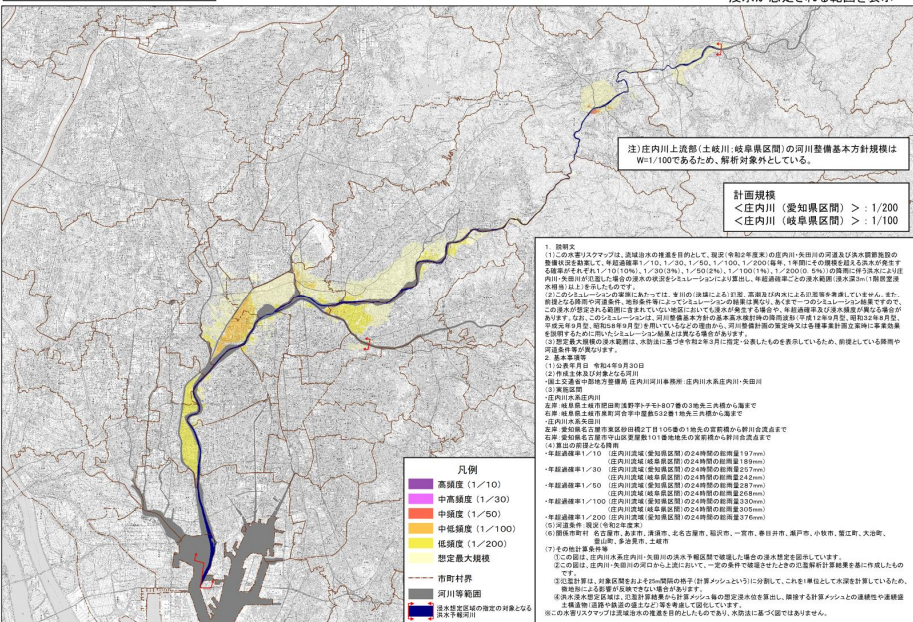
浸水深50cm(床上浸水相当)以上の
浸水が想定される範囲を表示



令和4年9月末時点版

【現況河道】

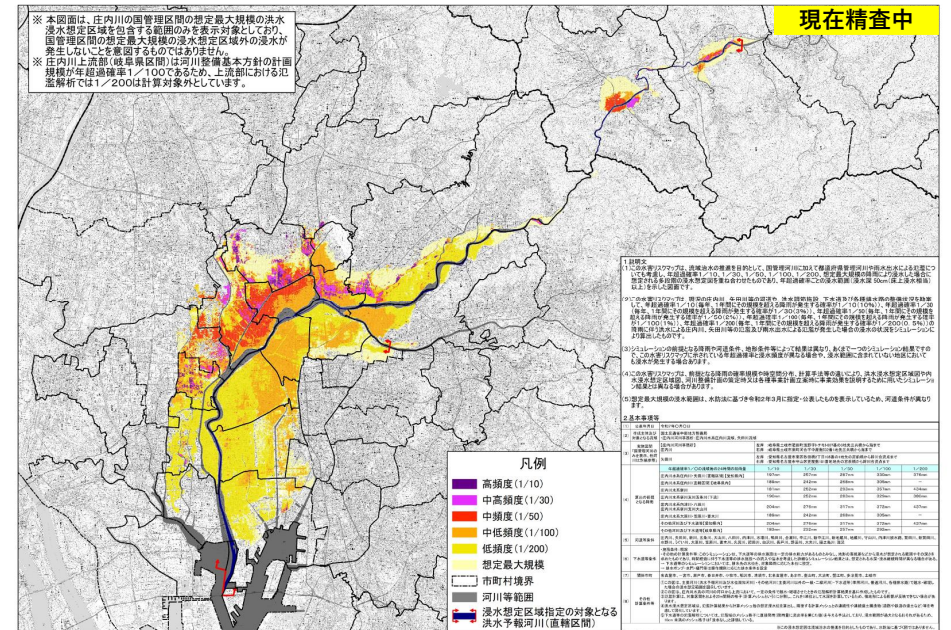
浸水深3m(1階居室浸水相当)以上の
浸水が想定される範囲を表示



<水害リスクマップ（内外水統合）>

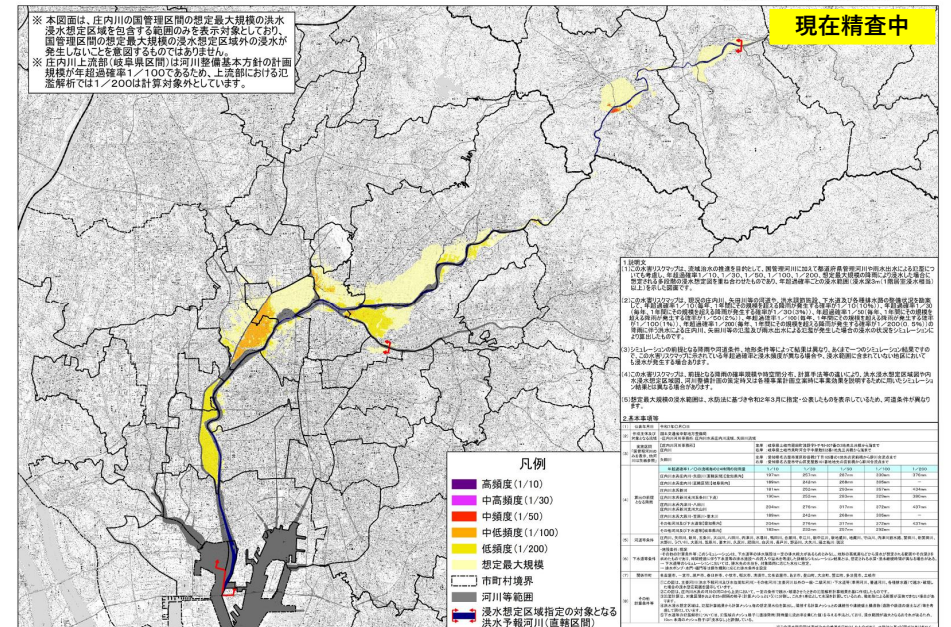
R7.3公表予定

浸水深50cm(床上浸水相当)以上の
浸水が想定される範囲を表示



※現在精査中であるため図面や記載分は、今後修正の可能性があります。

浸水深3m(1階居室浸水相当)以上の
浸水が想定される範囲を表示



※現在精査中であるため図面や記載分は、今後修正の可能性があります。